



A1 倶楽部

2024 新春号

【発行所】

さとう栄一
後援会総連合会

〒321-0954

栃木県宇都宮市元今泉5-1-22

TEL.028-662-3300

FAX.028-662-5501

住めば
愉快だ
宇都宮

UTSUNOMIYA

まず始めに、1月1日に発生いたしました「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになられた方々に心より哀悼の意を捧げますとともに被災された方々にお見舞い申し上げます。

昨年は、8月26日にライトラインが開業しました。国内初の全線新設のLRTとして注目を集め、多くのメディアに取り上げられました。利用者数も開業6カ月目で200万人を超え、通勤・通学の利用はもとより、休日にも数多くの方にご利用いただくなど、すでに本市の重要な交通手段としてしっかりと定着しております。今後計画しているJ-R宇都宮駅西側への延伸にも期待が高まっております。また、長引く原油高・物価高に適切に対応し市民生活や事業活動を支えるため、予算総額で約70億円の物価高騰対策に取り組んでまいりました。少子化対策として結婚から妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援をさらに充実するとともに、東京圏でのテレビCMの放映による移住に関するプロモーションや東京圏への新幹線通勤・通学支援を新たに実施するなど、移住・定住の促進に積極的に取り組んでまいりました。

本年も、市民の皆様の暮らしを守るとともに将来を担う宮っこが安心して健やかに成長できるよう「宮っこを守り・育てる都市宣言」の制定や総合的な公共交通ネットワークの要となる「ライトライン」をまちづくりにフル活用してまいります。また、子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」の実現に向けて、「人」づくりと「デジタル」の活用を基本に、「地域共生社会」「地域経済循環社会」「脱炭素社会」の3つの社会の構築とその基盤となる「NCC」の形成をさらに前進させてまいります。

社会環境が大きく変化し続ける時代にありましても『雷都』を未来へ」をスローガンのもと、すべては今を生きる市民と未来を生きる子どもたちのために、オール宇都宮で柔軟な発想により、市民サービスの向上や新しい価値の創造を目指す共創のまちづくりを推進してまいります。

宇都宮市長 佐藤栄一

検討にあたっては、

「イノベーションmiyaユース会議」で、子どもたちから直接意見を伺いました。

宮っこを守り・育てる都市宣言

佐藤栄一市長の主な取組

子どもたち一人ひとりが、地域社会の中で、「人間力」を高めながら、自分らしく、当たり前前に成長できるまち「宇都宮」を実現するため、令和6年2月に「宮っこを守り・育てる都市宣言」を制定しました。新年度は、地域社会が一体となり、市民一人ひとりが主体的に、子どもを守り・育てる行動を実践できるよう宣言の周知に取り組むとともに、子どもたちの意見表明の機会を確保し、意見を尊重しながら、本市の施策に反映させてまいります。

令和
5年度

★子育て支援・教育環境の充実

- デジタル適応支援教室「U@りんくす」を開設
メタバース（仮想空間）を活用し、オンラインで不登校児童生徒の学習支援や心のケアを行う「U@りんくす」が4月から始まり、現在63名※の児童生徒が利用しています。（※令和6年1月末現在）



★人口減少対策

- 東京圏への新幹線通勤・通学を支援

本市への移住定住のさらなる促進を図るため、小学生から社会人まで、新幹線を利用し、本市から東京圏に通勤・通学する際の費用の一部を助成する制度（年最大12万円）を創設しました。



★安全で安心なまちづくり

- 川の氾濫に備えてカメラを設置

豪雨などに備え、奈坪川や新川などの溢れやすい箇所（9河川12箇所）に監視カメラと水位計を設置しました。河川の状況を安全な場所からスマートフォン等で確認ができますので、皆様の防災活動に活用ください。



★行政サービス

- 水道基本料金を免除

物価上昇が続く中、市民や事業者を幅広く支援するため、日常生活に不可欠なライフラインである水道の、夏季（7月・8月請求分）の基本料金の免除を行いました。

★「脱炭素社会」を目指して

- ゆいの杜小学校 CO₂排出ゼロへ

太陽光発電設備の導入や市内バイオマス発電施設から電気を調達し、学校で使用する全てのエネルギーを脱炭素化する「ゼロカーボンスクール」を目指す取組がスタートしました。

市内
小中学校初



★ネットワーク型コンパクトシティ「NCC」の形成

- ライトラインも乗り継ぎ割引を適用

ライトライン開業に合わせて、バスと地域内交通間の乗継割引制度に、ライトラインを加えた制度の運用を開始しました。

ライトライン⇄バス：100円割引

ライトライン・バス⇄地域内交通：200円割引

★健康寿命の延伸

- 带状疱疹予防へ助成

带状疱疹は高齢期に発症・重症化しやすいため、安心して健やかに過ごせるよう、予防効果のあるワクチンの接種費用の一部を助成する制度を創設しました。

令和
6年度

★子育て支援・教育環境の充実

- 小学生への「totra」の配付

日常生活において公共交通を利用する習慣を促進するため、市内在住の全小学生（約2万7千人）を対象に、ライトラインやバス、地域内交通の運賃が半額になる小児用「totra」を無料で取得できる引換券を令和6年3月から配付します。



- 保育料第2子以降無償化へ

令和6年4月から、無償化の対象を「第3子以降」から「第2子以降」まで拡大します。（所得制限はありません）



★安全で安心なまちづくり

- 自治会の運営・活動支援の拡充

自治会活動のさらなる活性化を図るため、「魅力ある自治会づくり」への支援の拡充や、自治会会員の優待制度「宮PASS」の充実に向けた支援に取り組みます。

★行政サービス

- デジタルサービスの利活用の促進

市役所に『行かない』で行政手続や公金支払いができる「電子申請共通システム」や、窓口で氏名や住所などを『書かない』で手続できる「書かない窓口システム」を安心して使えるよう、窓口に「デジタル活用支援員」を配置するほか、デジタルに不慣れな方が身近な場所で相談できる地域のボランティア「宮デジサポーター」をさらに拡充します。

★「脱炭素社会」を目指して

- 「フードシェアリングサービス」活用促進支援

食品ロス削減に向け、店舗が売り切れない食品を消費者がお得に購入できる「フードシェアリングサービス」アプリの活用を促進するため、新たに、店舗の登録費用の助成を開始します。

★ネットワーク型コンパクトシティ「NCC」の形成

- ライトライン4月から快速電車を運行へ

宇都宮ライトレール(株)において、各駅停車（平日）の所要時間を現在の「約48分」から最短「約44分」に短縮するほか、通勤・通学時間帯の増便や快速運行などを盛り込んだ「ダイヤ改正」を行います。

★魅力創造・交流の推進

- 「3x3ウィーク」の開催（詳細は中面をご覧ください）

今年のゴールデンウィークは「3x3」をお楽しみに！



- 第30回百人一首市民大会の開催

「百人一首のまち宇都宮」をより多くの人々にPRし、節目となる第30回大会を盛り上げるため、市内のデジタルサイネージを活用した大会CMの放映などの普及啓発事業を行います。

A1 倶楽部

Vol.18

2024

【発行所】さとう栄一 後援会総連合会

〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉5-1-22 TEL.028-662-3300 FAX.028-662-5501

ライトライン 西側延伸へ期待が高まる

国内初の全線新設LRT ライトライン開業

ライトラインの延伸が計画されるJR宇都宮駅西口周辺地区のまちづくりに向けた整備基本計画策定のため、初めて懇談会を開催しました。対象地区は、西口駅前広場を中心に北側の日清製粉宇都宮工場跡地を取得したスポーツ販売大手の「ゼビオ」所有地や西側のトナリエ宇都宮、南側の六つの再開発街区などの約11ヘクタール。将来像は県都の玄関口にふさわしい風格やにぎわいのある居心地の良い空間を想定しています。

JR宇都宮駅西口周辺整備へ



駅西側のライトラインの検討区間、整備区間

ライトラインのJR宇都宮駅西側への延伸については、「大谷観光地付近」までを検討区間とし、そのうち、NCC形成の一層の推進とその効果が早期に発現できるよう、「宇都宮駅東口停留場から教育会館付近」までの約5kmを整備区間としており、将来のまちづくりと一体となつて、各種検討を進めるとともに、市民の皆様をはじめとする多くの関係者との意見交換をより丁寧に行い、2025年度の特許申請、2030年代前半の開業を目指します。

ライトラインの西側延伸計画

昨年の8月26日に、全線新設のLRTとしては国内初となる芳賀・宇都宮LRT「ライトライン」が開業しました。開業当日は、沿線に2万人以上が駆け付けるなど、大変盛況で「歴史的な一日」となりました。パレードでは佐藤市長と大関一雄芳賀町長が歩いて特別列車を先導し、高校生による吹奏楽・チャリディング・ダンスなどで花を添えました。JR宇都宮駅東口周辺は市民や全国からの鉄道ファンなどで埋め尽くされ、沿線各停留場では地域住民が手を振って出迎えました。一般運行開始前に市内や芳賀町の子どもたち約650人を計7本の列車に乗せた「キッズ・ジュニア先行乗車」が実施され、子どもたちは「沿道の人たちが手を振ってくれて、うれしくて手を振り返した」「振動が少なく滑るように走った」など感動していました。



30回目を迎えたアジア最高位の自転車ロードレース「2023ジャパンカップサイクルードレース」を昨年10月13日～15日の3日間で開催しました。14日のまちなか大通りにおけるクリテリウムには過去最高の5万5千人が来場、レースではエドワード・トゥーンス選手が3連覇を果たし、15日の森林公園におけるロードレースには降りしきる雨の中7万4千人のファンが沿道

ジャパンカップサイクルードレース

本年は、4月26日～28日の「FIBA A3x3ワールドツアー」のみやオプナー2023に加え、5月3日～5日には日本初開催となる3x3のオリンピック予選大会「パリ2024 FIBA A3x3オリンピック予選大会」が開催され、男女日本代表チームも出場することから、これらの期間を「3x3ウィーク」として盛り上げていきます。

3人制バスケットボールのクラブチーム世界一を決める国際ツアーの開幕戦「FIBA A3x3ワールドツアー」のみやオプナー2023が昨年4月28日～30日の3日間で開催され、大会会場の宇都宮・荒山神社参道・バンバ市民広場に世界のトップチームが集結し熱戦が繰り広げられたほか、今回は新たにライトキューブ宇都宮と宮みらいライトヒルにおいても様々な関連イベントを実施し、3日間で7万人が来場、経済効果は過去最高の5億8千万円となりました。

FIBA A3x3ワールドツアー 一つのみやオプナー

イベントが復活・大谷に新施設・東部に総合公園

宇都宮餃子祭りが昨年11月3日～5日に開催されました。今回初めて開催期間が3日間となり、会場には宇都宮餃子会に加盟する24店舗が出店しました。焼き餃子や揚げ餃子などが1皿200円均一で販売され、オープン前から各店舗には長蛇の列ができ、最大90分以上待ちの大盛況となりました。



宇都宮餃子祭り2023

のみや花火大会も鬼怒川河川敷で開催され約2万発の迫力満点な花火に歓声が上がりました。8月12日にはうつのみや花火大会も鬼怒川河川敷で開催され約2万発の迫力満点な花火に歓声が上がりました。



夏の風物詩 宮まつり・花火大会

に駆け付け、過去に世界選手権を制したルイ・コスタ選手が初優勝を飾りました。3日間の経済波及効果は過去最高の31億2千2百万円となりました。

イベントが復活・大谷に新施設・東部に総合公園

ライトライン平石停留場に直結する東部総合公園を2026年3月の開園を目指して整備予定です。スケートボードができる国内最大級のスケートパークやBMXパークのほか、3人制バスケットボールをはじめ、様々なスポーツやイベントなどを楽しむことのできる屋根付きの多目的広場、ゆとりある芝生広場などを整備します。また、地元農産物の産直店やライトラインの待合にも利用可能なカフェなどの飲食店に加えて、スポーツショップなども出店予定です。



ライトライン 停留場直結の東部総合公園

大谷地区に新たな観光周遊拠点施設「大谷コネクト」が誕生しました。施設は大谷石造りの国登録有形文化財「旧大谷公会堂」を移築復元し、観光案内ができるビジターセンターを新設しました。佐藤市長は「地元の方々が愛する素晴らしい大谷になっていくように、施設をフル活用し地域を盛り上げ、観光地大谷のさらなる振興につなげていきたい」とあいさつしました。土日には多数のイベントを予定しています。



観光周遊拠点施設 大谷コネクト開業

沿線の車両通行量約1割減に

ライトライン開業後、県道宇都宮向田線（鬼怒通り）の車両通行量が約1割減少しました。「宇都宮市東部地域渋滞対策協議会」において、陽東4丁目に設置したカメラデータなどを基に木曜午前7時～午後7時の車両通行量を比較したところ、コロナ禍前の2015年10月は東進・西進合わせて2万3534台でしたが、コロナ禍の2021年10月は1万7212台、開業後の2023年9月は1万5604台と減少しました。今後、交通量の減少理由などの確認をするため、より広域かつ継続的な調査分析を行ってまいります。



デジタルサイネージでもっと便利に

昨年の7月1日時点の県内基準地価は、ライトライン沿線などのJR宇都宮駅東エリアの上昇率の高さが目立ちました。住宅地上昇率トップは東宿郷3丁目の4.2%で上位5地点が全て駅東エリアとなっており、商業地でも上昇率トップは東宿郷1丁目となりました。

沿線周辺の地価の上昇

ライトライン開業により宇都宮のまちに変化

住みたい街ランキング [4位] 共働き子育てしやすい街ランキング [2位] 財政健全度ランキング [2位]

Woman.CHINTAI ユーザーが選んだ「住みたい街ランキング2023（首都圏版）」において、宇都宮駅は前回2021年の93位から大きく順位を上げ4位となり、東京圏以外で初めてトップ10位内に入りました。[1位] 北千住駅 [2位] 高円寺駅 [3位] 浦安駅 [4位] 宇都宮駅 [5位] 池袋駅

また、「共働き子育てしやすい街ランキング2023」（日本経済新聞社・日経BP社）において、宇都宮市は妊娠・出産・子育てへの切れ目のない支援の取組が評価され[2位]、財政力や財政基盤などの項目による「財政健全度ランキング」（東洋経済新報社「都市データパック2023年版」）においても、50万人以上の都市で[2位]となりました。



通勤・通学やスポーツ観戦で利用

沿線の車両通行量約1割減に